

(様式1)

職業実践力育成プログラム（BP）への申請について

申請日： 令和8年5月13日

①学校名：	北海道	大学（国立）	②所在地：	北海道札幌市北区北8条西5丁目		
③課程名：	科学技術コミュニケーター養成プログラム 選科					
④正規課程/ 履修証明プログラム：	履修証明プログラム	⑤定員：	70	⑥期間：	10か月	
⑦責任者：	教育イノベーション機構長 網塚 浩		⑧開設年月日：	平成18年10月1日		
⑨申請する課程の 目的・概要：	科学技術コミュニケーター養成プログラム（以下「C o S T E P」という。）は、科学技術の専門家と一般市民との間で、科学技術をめぐる社会的課題について双方向的なコミュニケーションを確立し、学術活動、研究開発の現場と社会の円滑なコミュニケーションを行い、社会に責任ある研究開発を実現するため、国民各層に科学技術の社会的重要性、それを学ぶことの意義や楽しさを効果的に伝達する役割を担う科学技術コミュニケーターを養成することを目的とする。					
⑩10テーマへの 該当	1 女性活躍	○	3 中小企業活性化	5 環境保全	7 医療介護	9 起業
	2 地方創生	○	4 DX	○	6 就労支援	8 ビジネス等
⑪履修資格：	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育法第102条に規定する大学院に入学することができる者 大学を卒業した者、またはそれと同等のリテラシーを有する者 					
⑫対象とする職業 の種類：	自然科学系研究者、人文・社会科学系等研究者、製造業、自治体の職員、学芸員、マスコミ関連の職種、初等中等教育の教員、一次産業従事者、サービス業従事者					
⑬身に付けること のできる能力：	（身に付けられる知識、技術、技能） <ul style="list-style-type: none"> 科学技術コミュニケーションを行うのに必要な諸概念の知識 科学技術コミュニケーターとして必要な、様々な表現とコミュニケーションの手法の技術 科学技術コミュニケーターとして実践していく上で、活動を実施するために必要なデザイン技能 					
	（得られる能力） <ul style="list-style-type: none"> 科学技術と社会との接点に生じる問題の具体的な事例をとおして、それらの問題がもつ多面的かつ複雑な構造について適切に理解する思考力 多様な立場の個人や組織と連携する際に必要な共創能力 					
⑭教育課程：	講義（27科目） 現在進行形の科学技術コミュニケーションに関する27コマの講義をオンラインで受講し、科学技術コミュニケーションの思考、情報分析と行動のための計画手法、科学技術コミュニケーションの実践力を獲得する。 選択実践演習（2科目） 「インタビュー・ライティング選択実践演習」では、北大祭の来店企画や北海道大学の各学部等が開催する各祭を取材し、読者を想定した理解と共感を導く取材・文章表現を修得する。「ミュージアム選択実践演習」では、関東のミュージアムを訪問し、科学コミュニケーションの実践について講義により修得した科学コミュニケーションの理論的背景を基礎に考察し、修了後のキャリアについて検討する。 演習（7科目） 3日間北海道大学に来て対面で学ぶ集中演習では、Learning by Designの手法を下敷きとし、オンラインイベント、サイエンスライティング、インフォグラフィックス、と異なる手法を、6回程度の講義を間に織り交ぜながら、それぞれが企画、立案、そしてピアレビューを経て制作する実践に近い活動の中で技能と態度を学んでいく。 演習ではAIと著作権・プロンプトといった科学技術コミュニケーションに必要なスキルをオンラインで学ぶ。					
⑮修了要件（修了 授業時数等）：	講義をすべて受講し、かつ所定の課題を提出し、選択した集中演習のすべての日程に出席した場合に修了を認める。					

⑯修了時に付与される学位・資格等：	学校教育法第105条に基づく履修証明書							
⑰総授業時数：	240	時間	⑱要件該当授業時数：	217.5	時間	⑲要件該当授業時数 ／総授業時数：	90.6	%
⑳該当要件	企業等	○	双方向	○	実務家	○	実地	○

⑳成績評価の方法：	講義への出席状況、講義後に提出するモジュール課題の提出状況及び課題得点、各演習、選択実践演習への参加状況及び活動態度及び活動への貢献度合いを総合的に判断して成績評価を行う。また、当該検証・評価方法について受講生サイト内でルーブリックの形式で確認できるものとする。
㉑自己点検・評価の方法：	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。「CoSTEP実行委員会」において、本プログラムの成果の検証や評価を行う。また、当該検証・評価結果については本学ホームページ、もしくは弊部門が発行する学術誌「科学技術コミュニケーション」において公表する。
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法：	修了者は修了後にメーリングリストへの登録をし、修了者の状況把握を行っている。また5年ごとに修了生向けの記念事業を実施し、修了生が集合できる機会を設けている。加えて、SciBaco.netという科学技術コミュニケーターのポートフォリオサイトを運営しており、修了生は本サイトに修了後に登録でき、科学技術コミュニケーターとしての活躍の場を設けている。
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み：	(教育課程の編成) 講義においては、外部講師を招聘し、企業、自治体等の現場で活躍する講師により講義が行われる仕組みを設けている。また選択実践演習においては、公共施設、企業と連携し、実践を行っている。また、企業や自治体に関連する有識者を第三者評価者として招聘しアドバイザー委員会を設置、開催することにより、課程の編成に企業等の意見を取り入れていく。
	(自己点検・評価) 企業や自治体に関連する有識者を第三者評価者として招聘しアドバイザー委員会を設置、開催することにより、課程の自己点検・評価を行う際に企業等の意見を取り入れ、外部意見について課程に反映させていく。
㉔社会人が受講しやすい工夫：	講義はオンラインで受講でき、集中演習は祝日を含んだ土日祝3日間の日程で実施している。また選択実践演習、選択演習共にオンラインか土日祝の開催である。
㉕ホームページ：	https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/

事務担当者名：	佐藤 豪	担当部署：	北海道大学学務部学務企画課大学院教育改革推進室
事務担当者連絡先：	(電話番号) 011-706-7585 (担当係E-mail) rec@academic.hokudai.ac.jp		

*パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

*様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ（文部科学省使用）」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください。